

わしはこゝにいらさぬ気持ちのいゝ家を止し
て、
と、
竹曲の立白がけに入るのやがて

持つたまゝ、下手から、
場の

光子 あんしんちん
どのあんなあんなと一
日、早くこゝの家へお連れしてよろこばし

あげたいと思ふ
光子 借
何れゆき
わし

のんきに、
のんきに、
のんきに、

子につけて、わしの考はかほつて来た。わし
は、
師だ。この、
春、
竹世山君が、
東

京の、
わしは竹世山君が馬車の中でお前に
とんお診察の結果を話したのは知つたの
る。

光子
あ、
あ、
あ、

秀作
あ、
あ、
あ、

あ、
あ、
あ、

あ、
あ、
あ、

